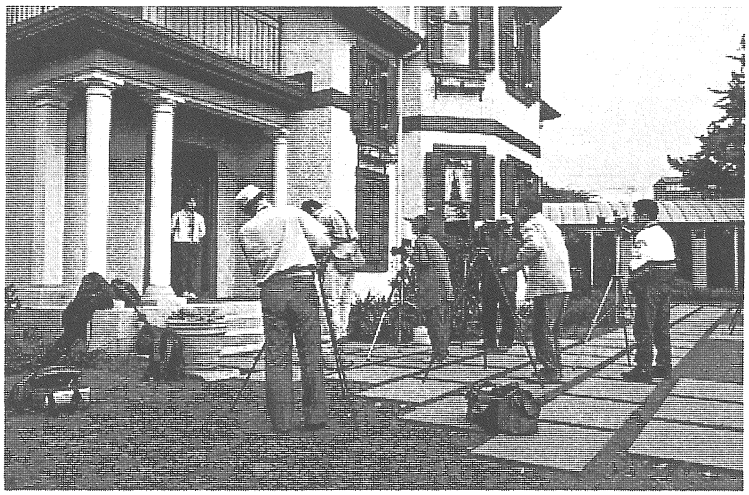
# Photographic Society of Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：99' 6/20
発行者：中島　秀雄
編集部：　内田順
編集レイアウト：篠原 康之

vol.14

## CONTENTS

・アンケート集計　ゾーンシステム研究会・第３回写真展
・アンセル・アダムスの世界展始まる！！
・ゾーンシステム・テクニカルアドバイス
・『赤外写真の魅力』 その２
・第二回撮影会 「人物」
・売ります買います
・INFORMATION



# アンケート集計　ゾーンシステム研究会・第３回写真展

昨年の展覧会のアンケートの集計が出ました。同じような意見、感想、また重複するような意味は一つにまとめ、重要だと思われるものは短い文章でも載せました。今後の研究会の参考にしたいと思います。

＜意見＞

・前回に比べて質感がよくでていると思います。一般の人が気軽に買える値段ですけれど、写真をやっている人には安いと思います。

・プリントの美しさがすばらしかった。2～8万円くらいでもいいと思う。

・全体に内容、質ともによくまとまっていると思うが、もう少し個性というかインパクトがないような気がする。

・路上で売るならRC 8X10で1,500円。路上ならば著名無名はほとんど関係なし。

・プリントの質としては、非常に高いと思います。値段は安いかなと思うものもあります。

・プリントを購入するのは、プリントのクオリティだけではその気になるのは難しいですよね。

・こんなきれいなプリントは初めて見ました。プリントを頑張ろうとおもいます。

・ゾーンシステムを初めて知ったが、すごくきれいにプリントができていて、細かいものまではっきり見えていていい。

・全体に柔らかい色調になっていて見やすかった。

・従来見ていたプリントと異なり感心した。

・値段は、作品のレベルとつりあうかでしょう。

＜感想＞

・作品もバラエティに富んでいると思います。もう少し広い場所でもっと多くの作品を見てみたいです。

・なぜ、赤外フイルムなのかもう少しコンセプトを強く出しても良いのでは。展示の方法をもう少し気にしても良いのでは。

・自黒プリントの魅力を味わうことができた。

・ガラスの反射でみにくかった。

・光による陰影、素材感、空間を感じたものが印象に残りました。Whirlpoolは、音が聞こえてくるようだった。

＜印象に残ったプリント＞（集計・佐伯勝幸）

| タイトル | 数 | タイトル | 数 | タイトル | 数 |
|---|---|---|---|---|---|
| Corn & Nectarines | 4 | Snow scape | 4 | Chaclao oven | 8 |
| Flower | 5 | Pilatus winter view | 5 | Winter village | 2 |
| Pilatus | 7 | Standing | 10 | Corn | 6 |
| Leaf | 4 | Shel | 10 | Lotus leaf | 1 |
| Thistle | 9 | River nude | 5 | Cabbege | 6 |
| Leaves | 3 | Botanica | 15 | Fishes | 2 |
| Seaside rock wave | 3 | Bodie | 16 | Forest | 12 |
| Whirlpool | 7 | Ruins | 4 | Botanica II | 2 |

・写真を撮られた方の話が聞けてとてもよかったです。
・どのプリントが印象に残っているかといわれると困りますが、すべての作品の質感の表現に感動しました。
・ファインプリントの基本、ゾーンシステムの勉強をもう少し本気でやる必要を感じました。プリントがきれいすぎるだけで良いのか？物の本質が出てきているのか？出ているとは思えない。
・白と黒の奥の深さを感じました。また、ぜい肉をそぎ落としたような都会的なスマートさをもちながら、とてもクリアーな印象を受けました。ありがとうございます。
・貝のエナメルの質感がすばらしかった。先生の花の作品はすごく感動しました。すべてすばらしいファインプリントでした。自分が焼いてきた作品はあまりにも下手で恥ずかしいくらいです。是非、ゾーンシステムを極めてみたいです。
・部屋が明るいのは良いと思うけど、もっと雰囲気をよくするといい。写真展ぽくない、学園祭みたい、静かに観る空間のほうが合っていると思う。
・いつも柔らかい（ボヤッとした）写真を好み、又、そのような写真の取り方をしていましたが、このような作品を観ると大変新鮮な衝撃を受けました。展示のイメージを損ねるようでしたら、別紙や別パネルでも結構ですので、作品の撮影機材、撮影データ、現像、プリントデータなど紹介していただければ、個人的に自分の勉強の助けになります。
・写真はやはり白黒が良いものと思います。ZONEの意味が些か不明でしたが、システムレポートで処理方法がわかりました。大変参考になりました。
・作品の数が多すぎる。
・中島さんの写真は、全体の構図と言うよりも、写真自体の持つ意味合いが面白かった。少し賢くなった。
・大判、中判の威力とグラデーションの深さに魅力を感じます。花、Leafの立体感。学ぶことがおおいにありました。35m/m判の写真があればもっと参考になりました。
・額装について、前面ガラスは不要なのではないか、せっかくのファインプリントを照明で見にくくしている。保護のためなら展示後の処理で可能ではないか。
・美しいプリントだと思います。好みとしては、少しコントラストが高いと思うのですが。
・中島氏のトークが印象に残っています。展示の期間が２週間くらいほしい。
・より写真家としての表現者をより意識していただいて、自己表現（内面）をフィルムに定着した後、その一番表現したいことをプリントに定着してください。
・ゾーンシステムということを目標としているためか写真の本質、想いということが薄れてしまっていると思っていましたが、レクチャーで作者の作品にたいする想いが強く伝わってきました。とても勉強になりました。
・プリントは大変美しい。作品としては印象、インパクトが無い。
・回を重ねる毎にだんだんよくなっていると思う。
・アートに近かづけること、これも写真の一部分です。立体感のある深めのものに興味があり。これ が35m/mのフィルムで可能ならやってみたい。普通の動きのあるものを撮れればよいと思う。
・さすがというか、やはりこういうものがモノクロ写真なんだなと、頭の下がる想いです。
・モノクロの作品は、想像力をかきたてられます。静かで美しいと思います。
・研究会の主旨はすばらしいと思います。１と０（ディジタルの世界）のあいだにある深い世界を追求していってください。銀塩にしかできない世界が依然として存在します。

－以上、アンケートより－

展覧会の新しい試みとして、来訪者にアンケートをお願いしました。静かに写真を見て帰るつもりでいた来訪者にとっては、いささか迷惑だったかもしれません。しかし、鑑賞者として見終わった後には何にがしかの想いや発言が錯綜してくるのも事実で、機会があれば吐き出しておきたいという気持ちもあると思います。

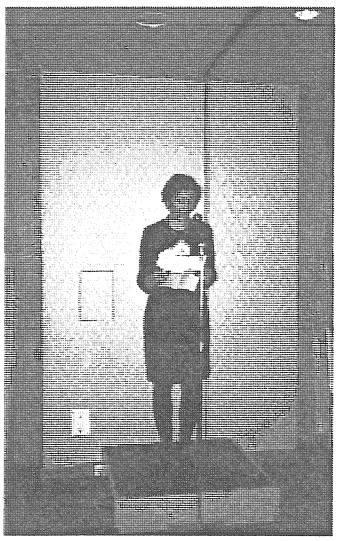
これは、会場でのわずかな時間の中での率直な気持ちの表明で、我々にとって貴重な資料になりました。この貴重な意見、感想からもわかるように、我々の進むべき方向は間違っていないと確認できます。また、個々の作品の内容をよりはっきりさせ強めることが求められていることも事実で、このアンケートから我々は多くのことを学ばなければいけないと考えます。貴重な時間をさいてアンケートに答えていただきました来訪者には、紙面を借りて御礼申し上げます。

中島秀雄

# アンセル・アダムスの世界展始まる！！
## ー中島秀雄ー

フレンズ・オブ・フォトグラフィ３０周年を記念して、アダムスの世界展が米国に続いて日本で開かれた。日本橋三越を最初に、以降、日本各地の美術館数ケ所を巡回することになっている。今回の作品はフレンズがコレクションしているもので、アダムスがフレンズ・オブ・フォトグラフィー設立のために慎重にセレクションしたものといわれている。ヨセミテはもちろんのこと、アメリカの雄大な自然を撮影した代表的なシリーズ、そして、サンフランシスコ、ニューメキシコなどの風景、さらにアダムスと親交のあった人々のポートレートと、作品集でもなかなか見ることの出来ない作品も含まれたった６日間という異例の期間ではあったが、十分楽しむことが出来た。オープニングには、アンセル・アダムス・センター館長のデボラ・クロチコ女史が挨拶し、「フレンズの重要な活動の一つである・・・・・・日本で開催できたことを嬉しく思う・・・・・・」と語っていた。

### フレンズ・オブ・フォトグラフィーとは？



デボラ・クロチコ
アンセル・アダムス・センター・館長

アダムスは雄大な自然を大型カメラで撮影し、写真を計り知れないほど豊かなものにした。このことは多くの人が認めるところ。しかし、彼は才能ある写真家というばかりではなく、写真を芸術として文化として高めていくという運動に大変なエネルギーを使ってきたことは一般に知られていないのは残念なことである。ニューヨーク近代美術館の写真部門創設やサンフランシスコ美術学校の写真学科の設立、そして、アリゾナ州ツーソンのセンター・フォー・クリエーティブ・フォトグラフィーの創設、ここにはアダムスのオリジナル・ネガが保存されていて、特別な許可を受けた学生は、アダムスのオリジナル・ ネガを使ってプリントすることが出来るというなんともうらやましい教育機関である。 ここでのワーク・ショップは有名で、我が師の細江英公先生も夏になると講師として参加していた。当然これらの美術館や教育機関にはアダムスのオリジナル・プリントが寄贈されていて、自らの作品と写真理念をもってすれば美術館を動かすことができる、というその自信と行動力には、歴史の中に登場する革命家にも似ている。これは、アダムスの友人でもあり師でもあったアルフレッド・スティーグリッツやメキシコのフォセ・クレメンテ・オロシコ、ジョージア・オキーフらとの出会いによる影響が大きかったとおもわれる。なぜなら、彼らは芸術家であると同時に強い信念をもった革命家でもあったからだ。アダムスは美術館や大学に自らの写真理念を語りかけ、そして動かしてきた。

しかし、まだ何か満たされないものがあったのか、1967年カリフォルニア州カーメルのアンセル＆バージニア・アダムスのリビングルームで‘創造性に富む写真を芸術の域まで高める’ことを目的にフレンズ・オブ・フォトグラフィーが設立された。1967年1月1日のことである。その場にいたのは、モーリ・ベア、エドガー・ビッサン、 アート・コーネル、リリアン・デコック、ナンシ＆バーモント・ニューホール、ロザリオ・マッツォ、ジェラルド・ロビンソン、ジェリー・シャプ、ブレット・ウエストンらが参加した。そして、アダムスが会長に、ブレットは副会長に選出された。最初の展覧会はカーメルの旧中学校で行われ、アダムス、ウェストン兄弟、ウイン・バロック、イモジン・カニンガム、ドロシー・ラング、マイナー・ホワイトが参加し、その後、フレンズは30年間さまざまなジャンル、スタイル、技法の作品展を300回近く開催 してきた。フレンズの活動理念はアンセル・アダムスに基ずくもので、写真芸術を媒体 として人々に新しい視野を開き、人々の精神を高め、人生に対する活力を与

えること、そして、イメージとアイディアが交差する場所としての役割を果たすこと、これが活動の基本理念になっている。

展覧会のほかに、高校生による美術館ガイドプログラム、教 師向けセミナー、大人のための年間集中セミナー、スナップシュット写真についてのランチタイムトークといった一般の人のための写真教育にも力をいれており、結果として真に写真を理解する人々の層の厚さは日本の比ではないことがここからもわかる。そして、この教育にかかわる指導者には、ジェームズ・アリンダー、モーリー・ベアー、ルース・ バーンハート、ピーター・バネル、リンダ・コナー、リー・フリドランダー、エメット・ゴーイン、マイケル・ケンナ、サリー・マン、リチャード・ミズラック、リゼット・ モデル、ライト・モリス、オリビア・パーカー、ジョン・セクストン、ルース・ソント ムソン、ジャック・ウェルポットといった写真家たちが指導するという大変な教育機関になっている。

大学や美術館の写真教育とフレンズとの違いは、大学では技術論、写真論、写真史、写真科学、美術館では講演や評論、解説が中心になっているのに対して、フレンズはとくに夏休みを中心に一般の社会人や家庭の主婦、教師、研究家、プロの写真家、アマチュアの写真家等が集まり集中的に行われる。そして、それは実技を伴うということが大きな違いだろう。夏は大学も休みになり、そこの暗室設備が借りられる。そして、それぞれの写真家が写真のコンセプトから撮影、暗室ワーク、仕上げまで見ることができるというのがフレンズの教育の特徴といえる。またいくつかの奨学金制度もあり、サリー・マンやキャサリン・ワグナーが受けている。また、学習障害者のための写真教室もあり創造的な道具を提供することで、達成の度合いが測れるようになっていると聞く。また、これは実にアメリカらしいと思うのだが、「フォト・イン・スクル」 には非行防止プログラムがあって、彼らが自発的に問題を解決し社会に創造的なかたちで貢献するために必要な材料を提供しているという。そういえば去年、都美術館で行われた「ラブズ・ボディー」展で、作家ピータ・ヒュジャーは「自分が非行に走るのを 写真によって救われた」といっていた。こうしてフレンズ・オブ・フォトグラフィーの活動を見てくると、アメリカの教育に対する多様性がよくわかるし、写真に対

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学生/教育者/芸術家 | $35 | 基本特典 | |
| 准会員 | $60 | 基本特典 | |
| 海外准会員 | $80 | 基本特典 | |
| 家族会員 | $70 | 基本特典 | |
| 援助会員 | $125 | 基本特典 | ＋ポートフォリオ |
| 持久会員 | $300 | 基本特典 | ＋コレクター・プリント、１枚 |
| 寄贈会員 | $500 | 基本特典 | ＋コレクター・プリント、２枚 |
| 賛助会員（パトロン） | $1250 | 基本特典 | ＋パトロン・プリント＋コレクター・プリント、３枚 |
| 寄贈者 | $2500 | 基本特典 | ＋スペシャル・プリント＋コレクター・プリント、３枚 |
| 理事 | $5000 | 基本特典 | ＋スペシャル・プリント＋コレクター・プリント、３枚<br>＋ギャラリー・イベント20回招待＋特別イベントに招待 |

**基本特典：アダムス・センター　フリー　　ブック・センター　10%ディスカウント**
**セミナー、イベント、ディスカウント　　フレンズ、ニュース・レター**

する取り組みのまじめさと情熱に改めて驚き、写真文化国家として第一級の国と認めざるおえない。しかし、いったいこれだけの大きな活動運営はどのように支えられているのか。それは、会員制度と様々な基金によって運営され、その会員資格にはさまざまなカテゴリーがあってこれも見逃せない。それぞれ年会費が違う分、会員に対するサービスも当然違ってくるが、人々がそれぞれの立場で参加出来るように選択肢も多く、ここにも多民族国家、多様性がよくわかる。その他、八つの財団の基金と、コダック、カルメットなどの基金によって運営されていて、写真がアートとして広く国民の中に浸透しているというばかりではなく、企業の中にも写真に対する多くの理解者がいることの現れだといえる。芸術写真が人々の精神を高め、人生に対する活力を与えるというフレンズの理念が確実に実を結んでいるように見える。フレンズの教育理念とその活動を調べていくと、教育の大切さを改めて感じ、日本の写真教育の貧しさに情けないものを感じてしまう。いずれにしてもフレンズの活動は我々にとって貴重な情報源であり、今後注意深く見ていきたいし、会報にできるだけ流していきたい。

基本特典にプリントがもらえるとあるが、コレクター・プリントやスペシャル・プリントは毎年変わり、今年のコレクター・プリントはアラン・ロスをはじめ５人の写真家 のプリントになっている。スペシャル・プリントはルース・バーンハートとハンセル・マイスになっていて、当然レベルは上のようだ。私は海外会員で、基本特典のみが受けられ、フレンズに直接行かなければメリットはないが、定期的な刊行物が送られてきて、それがフレンズの情報になっている。フレンズについては以前から詳しく知りたいと思っていた。今回アダムス展の開催にあたって関係者に配布された資料を参考にしている。

**アンセル・アダムスの世界展、今後の予定**

６／５－７／１１　　愛媛県美術館
７／１８－８／２２　砺波市美術館（富山）
９／３－１０／１７　道立釧路芸術館（北海道）
１０／２６－１２／１２ 川崎市市民ミュージアム

連載

# ゾーンシステム・テクニカルアドバイス

中島秀雄

## フラットニング

水を含んだバライタ紙は、自然乾燥するとカールや歪みが生じる。自然乾燥ネットで湿度をコントロールしながら乾燥させたものは、それほど大きな変形はない。しかし、そのままファインプリントにするには少し無理があり、作品としてはいまだ未完成といった気持ちになってしまう。ただ、プリントの表面の艶は変形した自然乾燥のままのほうが高く、その後のフラットニングで少し失われてしまうように感じる。私の場合、コンタクトプリントやワークプリント（試しプリント）はまとめて印画紙の袋に入れ、上に本を載せてフラットニングすれば十分だと思っている。

## ドライマウントプレス器の使用

ファインプリントとして仕上げるには、ドライマウントプレス器によるフラットニングが今のところベストだろう。シール社、ボーゲン社といった米国のメーカーが長年のノウハウから作り出したプレス器が良く知られていて安定している。

CALUMET 社のカタログより

| | |
|---|---|
| シール・マスタービース500T-X | $2389.00 |
| シール・コマーシャル　210M<br>（サイズ・462x575） | $949.95 |
| シール・コマーシャル　210MX | $1059.00 |
| シール・ジャンボウ　160M<br>（サイズ・462x387） | $739.95 |
| シール・スイング・アーム110s<br>（サイズ300x375） | $449.95 |
| ボーゲン・テクナル　560<br>（サイズ462x562） | $629.95 |
| ボーゲン・テクナル　510<br>（サイズ300x375） | $506.95 |

ヒーター内蔵のプレス器であるから、頑丈で重いのはしかたない。個人で持つとなると収納や移動がやっかいで、固定できるスペースを必要とする。しかし、フラットニングだけではなく、その後のプリントのマウント仕上げに使っていくことを考えると、適当なものを一台揃えたい。私は中古のものを２０年以上前に手に入れたが、今も全く問題なく使っている。シール・ジャンボウ１６０M当たりが適当と思う。全紙サイズより小さいが、数回に別けて行えば全紙サイズでフラットニングもドライマウントも出来る。

## フラットニングの方法

プレス器の中に２ｐｌｙのアーカイバル・マットボードを２枚入れ、温度を７０－９０℃に暖めておく。新しいボードには水分が含まれていて、時々プレス器を開けて蒸気を逃がしてやる。このボードはプレス器専用に使い、汚れたり析れたりしたら交換する。金属のプレス器に直接プリントを入れたりはしない、焼けたり、くっついてしまう。プレス圧力も調整できるが、この圧力を説明するのは難しい、圧力が強すぎても作業効率が悪く、弱すぎるとドライマウントはうまくいかない。市販のものは、ほとんどのものが調整済みである。暖められた２枚のボードの間にプリントを入れ、プレス器に差し込み１分から２分暖める。もし十分なフラットでなければ温度を少し上げるか、2.5分にする。長時間プレスしたプリントは、ボードにドライマウントしたときボードとの湿度が合わず変形してしまい、見にくい仕上げになってしまうので注意が必要だ。私は、11x14は一枚、8x10なら２枚入る大きさなので２枚プレスする。

## 注意事項

マットボードやプリントの表裏にほこり、ゴミがないか確認する。柔らかなブラシ、エアダストオフ等で取り除いておくことが絶対に必要だ。小さく柔らかいものならゆるせるが、サビやシャーペンの芯などが入ったままプレスすればプリントにダメージを与えてしまい、ファインプリントにはならない。２枚入れるときは重ならないようにする。カールの激しいプリントは十分な注意が必要で、プレス器の隙間からプリントの状態を確認しながらゆっくりプ

レス器を下げるとよい。それでもうまくいかないときは、定規を使ってプリントに注意しながらカールを直し、プレス器を下げていく。カールの強すぎるプリントは乾燥のしすぎで、冬のオフィスビルの中は大変乾燥していて、一晩そのまま吊して自然乾操すれば完全にカールしてしまう。学生達がこれでよく困っている。バケツに水を入れて用意したり、ぬれたタオルを下に置くといくらかいいようだ。プレス器から取り出したプリントは、表面を内側に大きくカールしている。これは不規則なカールと違い時間がたつとフラットに戻るので、温度が下がるまでクリーンで平らなところに置いておく。私は汚れのないストレージボックスの上に置いてしばらくそのままにしておく。ドライ・マウンティング・フラット・ パネルがあって、重い金属板に白のエナメルが塗られていて、プリントの上に直接のせて急速にプリントの温度をさげて平らにするものもある。30分もすればほぼ平らになり、重ねてストレージボックスに入れて修整を待つ。

### 写真の修整

修整は写真が発明され大衆化していく過程で始まったと思われる。客の好みに応じて、銀板の表面に筆を使って薄く色を付けたり、修整台を使ってエッチングも行っていた。

### ネガ修整

修整には原板であるネガの修整とプリントの修整がある。写真館のポートレートのほとんど、白黒・カラーともネガ修整され、独特のまろやかなプリントになっている。私も大学でネガ修整の実習経験があり、修整台にネガをのぜ修整ニスをぬり、極細にとがらした修整鉛筆で必要な所に塗っていくもの。写真館出身の友人たちは簡単に仕上げて先生のＯＫをもらい、さっさと掃ってしまった。ネガ修整がうまく出来れば、ファインプリントをつくるうえで大きな力になる。なぜなら、撮影前にシートフイルムからゴミ、ホコリを完全に取り除くことは不可能に近く、そのまま撮影すればゴミがフィルムに写ってしまい、プリントしたとき見にくい点や線として出てくる。シャドーの部分にあればまったく気にならないが、空のようにハーフトーンやハイライトに出てきたときにはがっかりしてしまう。この場合、鋭利なナイフで削るしかなくプリントにキズが残ってしまう。もしネガ修整出来るとしたら、完全ではなくても弱めることができる。顕微鏡と鋭利な針を使って丹念にネガ修整する人もいると聞く、ぜひやってみたい。パソコンなら拡大して簡単に修整できる。

### プリントの修整

プリントの表面に表れる白い斑点やホコリの跡は気になるもので、ファインプリントの質を下げてしまう。これはスポティングで修整するしかない。プリンティングで、ネガのゴミ、ホコリを丹念に取ればスポッティングは簡単にすむ。私の場合、新しいネガにはホコリはほとんどないが古いネガには多少ホコリがついてしまい、プリントの前に時間をかけてよく取るようにしている。１０分かけてホコリを取ってもスポッティングに１時間 かけるよりはましだからだ。

### 準備

| | |
|---|---|
| ・スポトーン修整液No.3 | ・ティッシュペーパー |
| ・極細の筆 | ・シリコンクロス |
| ・陶器のパレット | ・ホワイトグローブ |
| ・精製水 | |

パレットの一カ所に精製水を入れ、他のケ所に修整液を少し入れる。修整液がすぐ乾燥するように薄く延ばし乾燥をまつ。修整液をそのまま筆に付けてプリント修整してもうまくいかない。まず、筆に水をぬらしペーパーで水分を取る。パレットにある乾燥した修整材を筆に少し取る、このときプリントより少し薄めの修整材を筆につけるのかコツである。プリントより濃ぎるとうまくいかない。薄いインクで何回かスポティングして、まわりの濃さに合わせていく。塗るのではなく、点でインクを置いていくのがスポティングの秘訣、もし塗ってしまったらスポッティングにならない、見にくい修整後が残るだけだ。プリントに直接手が触れないようにシリコン

クロスを広げ、汚れやキズから守る。筆がブレてうまく行かない場合は、左人差し指を筆に軽く添えるとうまくいく、つまり両手を使うことになる。私は、修整することでしだいにプリントの質が上がってくるような気がいつもしている、また、自分の体温がプリントに伝わっていくことで充実した気持ちにもなる。修整のための環境としては明るい部屋が望ましい。両眼で見るワークルーペがあると仕事が楽になり、好きな音楽でも聞きながらやるとよい。ただ集中力は必要だ。

次回はドライマウント、額装。

# 『赤外写真の魅力』

平野　武利　前号から続く

今年（平成１０年）の夏コニカ７５０についてコニカの製造担当の方がが４人ほど話を聞きたいということで私のところへ来ました。

私が山の写真でこればかり使っているものですから３時間ほど話をした。昭和９年から製造メニューはまったくかわっていないということですと笑っていました。今後どのようにするのか、あまり売れないと製造やめられてしまうと困るから、私は友達を動員して、あの人はこんなふうに、この人はこんなふうに使っているとデーターを集めて話をしました。第一に粒子を細かくしてほしいと要望しました。６ｘ６でも拉子が細かくなればきれいな写真になる。コニカの最近の技術ならそれほど難しくはないらしい、しかし今までそれで来ているので会社としては処方を変えるというのは大変なことらしい。変えるのが大変だということで今まで来ている。今後どうするのかその返事はまた後日お知らせします。

いろいろなフィルムがあったんですが現在は750ナノメートルのところに最大感度があるフィルムだけが売られている。これは毎年３月半ば頃売り出され、そして１年に一度しかコーティングされません。使用期限は来年の２月までということで箱にマークがしてある。使用期限は一年なんですが、私は100本位買って冷凍庫に入れておくと３年は十分使える。それ以上は使ったことがない。

ぜひ皆さんも赤外フィルムを使っていただきたい、そうしないと需要がなくなって私の一番愛するフィルムがなくなってしまうので、よろしくおねがいします。

コニカの前の社長の米山さんにこの写真集を進呈したら喜ばれました。コニカのフィルムがなければこの本はできなかった、自信をもってこの世界に誇るフイルムを作ってほしいと手紙に書きましたら、丁寧な返事をいただきました。

現像液はD-76の１：１が私が使っている現像液です。コニカドールファインで指定の20℃7分でやるとかちかちのネガになってしまう。現在の指定は6分になっている。実際に使うときは自分で確かめながら進めるとよい。その外にコダックのハイスピード・インフラレッドフィルム35ｍ/ｍがヨドバシで売っている。４ｘ５もあるが、蛇腹のカメラはだめなものもある、赤外線が透過してしまうから。感度が高くうまく使うとおもしろいフィルムだが粒子が荒い、それと装填が真っ暗闇でやらないとだめで、パトローネにあるビロードから光が入ってしまう。ダークバックでやれば大丈夫。このフィルムは可視域全部に感光するパンクロ赤外タイプで、粒子は荒いがそれはそれで面白い。その外に日本では売っていないがイルフォード200、アグファパンAPX200Sなどがあるようだ。

コニカ７５０は赤外のみ増感してあるが、他のフィルムは可視域全部に感じるようになっていてパンクロとしても使えるようになっている。ブロー二一があれば使ってみたい。ヨーロッパにはあるようでが。

赤外というと赤外マークのことをすぐ気にする方がいます、ところが私の今日お持ちした２台のカメラは、あとで述べるように自作カメラで固定焦点でｆ16より開けない、もう一つのカメラはヘリコイドがあって普通のフィルムでも撮れるようになっている。焦点の位置を決めるには実際にフィルムを入れて少しづつ動かしながら撮影して見つけるのがよい、そのために10本フィルムがなくなる。フィルムフォルダーは取りはずせるのと固定のがある。他のフィルムでも撮れるようになっている。市販のカメラと違ってフレアー防止のマスクを内部にぜいたくに使っている。大変効果的で、市販のカメラはここまでやらない。固定焦点のものはピントを決めるのがやはり大変で薄いリングを入れながら固定する。これでｆ16に絞ればほとんどピントはきます。赤外マークの価はどのようにして出すのか間い合わせたら、ミノルタから返事がきた。768ナノメートルでレンズ上のピントの位置を設計上で計算しそれで赤外マクを着けている。

しかしそれでもピントが合わないと苦情がくるので、あくまでも実写で決めてくださいと返事をすることにしたといっている。最近のレンズにはマークのないものが多い。ライカM6、ズミクロンには赤マークはない。赤マークがあるとかえって気になってしまって赤外はめんどうだということになってしまう。あまり気にしないで使ってみていただきた

い。

**赤外パノラマ写真の実際**

市販のカメラは重くてお金もないので17年前から手作りカメラを作り、すでに全部で5台あってこれを使っている。いまでも問題はなくもちあるいている。とにかく軽いカメラを作ろうとした。東急ハンズで買った2本の真鎮の角棒をカメラの上に着けて写る範囲をこれで見ます。連続して撮るときにネガで5～6m/mの重なりができるように設定してある。尺捕り虫のようにカメラを回して撮り、一つの300m/mカメラはおよそ16度、もう一つの90m/mmカメラは45度で、これは8枚撮ると360度になりブローニー1本となり、8枚撮ると360°つながってくれる。90m/mのレンズを6x9として使うとまことに都合がいい。望遠の300m/mカメラには720nmまでカットするフィルターを使っている。カメラの重さはおおよそ1キロ、フィルターは普通の赤フィルターだが撮影に正確に水平を取らないと印画がうまく合わなくなってしまう。専用フードも反射防止を付けてある、こういう細工が楽しい。65m/mのレンズで撮影すると周辺光量が不足してつなげたときにうまくいかないのでパノラマには使わない。偏光フィルターは一枚の場合はよいが、つなげるとなるとうまくいかない。方向によつて偏光効果がちがってしまうから。空が半分入るから雲がある場合にはさっさとやらなければ雲が動いてうまくつながらない。途中で話かけられてしまうと撮ったかどうかわからなくなり巻いたかどうだかわすれてしまう、そういうときはしかたがないからフィルムを入れ替えてはじめからやり直す。

メインになる山を決めてそこからスタートする、富士山が半分になってしまってはこまるからだ。後で染料で修正するときもある。左から右へ撮っていく、右巻きのホルダーだからそうしないとつながらない。35m/mカメラでも右巻のカメラであれば左から右へとっていくとよい。雲台はかならず取り外す。赤外フィルムの露光は絞りは11～16、1/8、1/2秒で曇のときはあまり撮りません、そしてレリーズを使って手早くとる。それと三脚なんですができるだけ軽いものにする、若いときは重い三脚も苦にならなかったが、今は軽いものにしている。そしてストーンバックを活用し三脚がしなうくらいに石をのせる。

山頂にはだいたい石がある、家内といっしょにいくと家内は石集めです。そしてカメラの上にも大きな岩をのせるときもある、そしてレリーズで撮る。

**フィルム現像**

現像の話に入りますが現像液は色々なものを使ってきたが私は今ではD-76、1:1の使い捨てでやっています。時間は6～7分くらい、風景のコントラストが低いなと思ったときは時間を長くしたりして多少加減する。35m/mとちがってブローニー判は現像ムラがでやすい、現像ムラは縦に出てくる、横に出れば雲のようにもなるが、ムラにならないように20℃にした表面活性剤の希釈液に1分間前浴する。よく染み込ませておいて現像します。これはかなり効果的です。回転はできるだけゆっくりやる、コダックのように激しく動かしたら絶対にムラが出てしまう。業者のいっていることを全部信用してはだめ。これが私のやり方で、皆さんどんなやり方なのか逆に教えていただきたい。攪拌は回すだけひっくり返すと上下にムラが出てしまう。現像タンクはマスコを使う。現像している間にフィルムの先端が泳いでしまい、フィルムが飛び出してしまう。それを防ぐためにステンレスのストッパーを工作して作った。フィルムの先端を金具に差し込みリールに止める。こうするとフィルムは泳ぎ出していかない、これをやらないと泳ぎ出してムラができうまくいかない。マスコタンクの場合も転倒するようなことはせず、わずかに回転させるだけです。フタは取れなくなってしまうので使わない、タンクだけ使っている。印画紙は月光の多階調を使っています。私の写真は印刷することを前提にやっています。ここまでで何か質問がありましたら。

Q赤外フィルムというのは普通のフィルムにくらべて圧倒的に現像ムラが出やすいと聞きますが。

Aそういうことはないとおもいますが、半分が空ですからここにムラが出てしまうとほんとうにこまってしまう、山の部分にムラが出ても全然目立たない。

Ｑ普通のフィルの場合攪拌が足りないとムラが出てしまうが。
Ａ攪拌はやればいいというものではなく、激しくやると怖いですね。先端を止める理由はフィルムが流れ出てしまい、フィルムの隙間がせまくなりフィルムの間の液量が少なくなる

Ｑ空の濃度は南北で変わってこないか。
Ａもちろん変わってきます、しかし露出はすべて同じにしておきます、ですから露出は少しかけぎみで多少現像は柔らかくなるようにします。逆光ぎみになっても露出はすべて同じにして現像は柔らかぎみにしておく。露出を変えてしまうと画面がつながらなくなってしまう。日の出直後に撮影はしない、太陽が入ってしまう。太陽がフードでカットされるようになってから撮影にはいる。

テープより書き起こし・中島

# 第二回撮影会　「人物」

本年第二回目の撮影会がゴールデンウィークの初日、4月29日に行われ、中島先生、二人のモデルさんをかこんで11人の会員が参加した。

■　室内の部

朝九時　　石川町駅前に集合。あいにくの小雨と風、四月末とは思えない肌寒さで屋外の撮影はひとまずあきらめ、車で「横浜市イギリス館」へ移動する。

元はイギリス総領事官邸だったという建物は落ちついた洋館で、たいへん良い雰囲気。一階のホールではピアノの発表会が行われていて、かすかに響いてくる音色が思わぬBGMになった。

我々の会場は二階の集会室。あまり広くはないが、暖炉や丸窓、バルコニーなどがあり、いろいろと変化に富んだ作品が撮れそうだ。

十時　　モデルは田中さんと小塙（こばなわ）さん。二人は小中学校の同級生とか。気さくな会員が多く、初対面でもあまり緊張することなくスムーズに撮影が始まる。

先生のデモンストレーションに続いて会員が順にシャッターを切るが、曇天のため室内も暗く、1/2から1秒のシャッター速度となっていまう。1秒のシャッター音を聞き「え～っ、そんなに永い間じっとしいるの！」と驚くモデルさんも。

先生用意のフラッドランプを点け、画面のメリハリが出ると同時にモデルさんの負担も軽くなる。

まず暖炉と電気スタンドをとりいれた構図で一通り撮影。二班になるため、先生の他に写真館を経営するU氏がポーズをつける。さすがはプロフェッショナル、ありあわせのテーブルなども利用し、びしびし決めていく。

モデル撮影会ということを意識してか、会員のカメラはブローニーが大半で、普段とはかなり違った雰囲気だ。全員がマイペースで撮影というわけには行かないので、これは正解であったようだ。そんな中、J氏の4×5一眼レフ（グラフレックス）が一際目立つ存在であった。

室外組は肌寒いバルコニーで撮影。モデルさんの表情もこわばりがちで、「大きく笑って！」という注文もちょっとむなしい。

昼食は隣のホテルレストランで。雨は上がってきたが、イギリス館の庭には入れないという。引き続き室内で撮影するが、皆慣れてきて、ポーズの注文もだんだん難しくなってきたようだ。

■　屋外の部

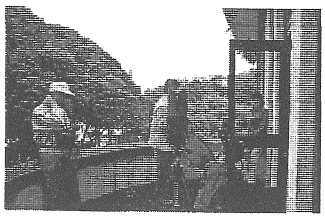
三時近く、天候もやや安定してきた様子なので屋外撮影に切り換える。

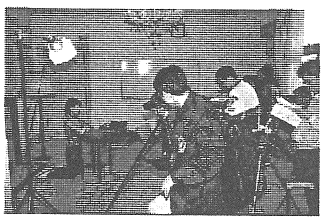
第二会場は1kmほど離れたイタリア山公園の「ブラフ18番館」。大正時代の洋館を移築したという建物は、鎧戸や玄関ドアなどが格好の題材。

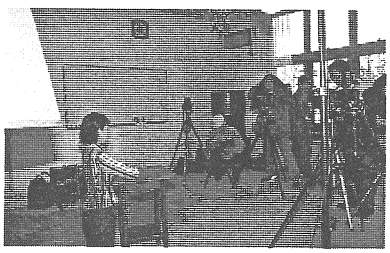
「人物中心だけではなく、建物のディテールにも注目するように」と先生の注意が飛ぶ。

玄関先で撮影していると、ようやく日が射してくるが、雲の動きが早く露出の決定に苦労する。

五時　　また厚い雲も出てきたのでお開きとなる。天気がハッキリしなかったおかげで一般の入場







者は少なく、殆ど貸し切り状態で撮影できたのは幸いだった。

記念撮影はモデルさんのデジカメで。撮ったその場で構図に注文がつき、何枚か撮り直す一幕も。画像を送ってもらうために、会員が電子メールのアドレスを教えるという逆転現象（？）もあった。

「作品づくりは銀塩モノクロ」「普通の記念写真はデジタル」という二極分化がすぐそこまで来ていることを感じさせる。

■　反省会の部

元町の喫茶店でしばし休憩。S氏はモデルさんにスポットメーターの使い方を伝授するなど、ゾーンシステムの普及に熱心だ。（若い女性と話すことにもっと大きな意義を感じていたのかもしれないが、真意は不明）

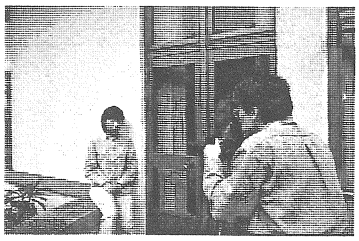
そんな中「五月の例会には今日の作品を持参できるよね！」という先生の一言に、一瞬あらぬ方向を見る会員も...

あたりが夕闇に包まれる六時過ぎ、解散。お疲れさまでした。

■　謝辞、その他

十時から五時までの長時間、あまりよい天候に恵まれず、肌寒い中を疲れた顔もみせずにポーズをとってくれたお二人、会場の確保に奔走してくれた幹事の皆さん、そしていつもながらご指導を頂いた中島先生の各位にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

人物撮影会というと、どうしても一定の「型」にはまってしまうことが多いのですが、より対象の本質にせまる「何か」を表現できれば... と、個人的には模索するきっかけになりました。　（畑記）



小塙（こばなわ）さんからコメントが届きました。

ゾーンシステム研究会のお話を伺って、どんなふうに撮影するんだろうという興味から、モデルを引き受けさせていただきました。皆さんが写真を撮ることに専念できるように努めたつもりですが、自信のほどは…。皆さんの腕に期待しております。

私自身、写真に関心がありまして、ゾーンシステムについての知識や構図の取り方
などとても勉強になり、刺激となりました。有意義な時間をありがとうございました。

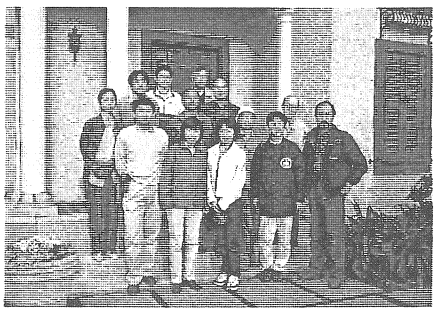
モデル撮影会のもう一人のモデル（田中さん）からもコメントが届きました。

写真っていいですよね。今はビデオが主流のようですが、写真はアルバムに貼っておけばいつでも見られるし。

私自身、子どもの頃に写真好きの叔父が撮ってくれたたくさんの写真を、今でも何かにつけてひっぱり出しては眺めています。意外にも幼い私は、きどってポーズをきめてたりするんですよ。そう、先日の撮影会では、目はつぶっちゃうわ、皆さんの注文どおりのポーズはできないわで、本当にご迷惑をおかけしました。どうも、三脚付きのカメラの前に立つと緊張して固くなってしまいまして・・・。

でも、めったにできない経験をさせて頂き、私としてはすごく楽しかったです。
本当に有り難うございました。

皆さん、おヒマな時はオリーブにいらして下さいね。



## Information

### ヨセミテ公園、撮影ツアー決定！！

来年６月に、ヨセミテ公園撮影ツアーをおこないます。
ただいま旅行会社との最後の詰めに入っている段階です。
今月には折衝を済ませ、来月（７月）には、正式に参加者の募集ができると思います。

皆さん是非楽しみにしていてください。

---

### ＜売ります＞

・ELニッコール　80ｍ/ｍ　新品　　￥9、000.
・コンタックス　TvsII　　新同用（元箱付き）
　　￥80、000.
・４ｘ５ホルダー　リスコ、フェディリティー
　　新　￥1、200.
・ZONE　VI　引延機　８ｘ10コールドライト付
　　￥280、000.

### ＜原稿募集＞

会員の皆様からの原稿・情報を常時お待ちしています。
原稿送付方法
　フロッピー・MOは、Mac、Windowsどちらのフォーマットでも可。圧縮無しのテキストファイルで。メールも同じ。
　手書き原稿はタイピングの必要があるので原則受け付けません。100文字程度の雑文は可。
できれば、プリントアウトが嬉しいですね。写真はネガ・ポジ・プリントいずれも可。

（篠原）